

事業概要書

事業名	熱海土石流被災猫の保護事業				
開始日	2021年11月1日	終了日	2022年6月30日	日数	242日
団体名 (カウンターパート)	NPO くすのき				
担当者名	那須美香	スタッフ人数	4人		

事業費総額 (税込)	987,200円
CF 事業枠	987,200円
その他資金	0円

事業目的	<p>熱海市の土石流被害でペットを飼うことができなくなった被災者の猫を預かり、飼育することで、飼い主が安心して避難生活を送れるようにする。また、被災地で飼われていた猫の里親を見つけ、猫が平穏に暮らせる環境を整えることで、猫とひとが共存するやさしいまちづくりに貢献する。</p>
事業全体の概要	<p>●くすのきとは</p> <p>2004年に熱海市で猫の保護活動を開始。ブリーダー崩壊や多頭飼養崩壊など劣悪な環境下におかれた猫の救出、飼育放棄などで行き場を無くした猫の保護、保護猫の心と身体のケア、定期的な譲渡活動を通して、保護猫が幸せな第二の道を歩めるよう活動している。2021年にNPO法人格取得。</p> <p>2020年度は200匹以上の猫を保護し、これまでに保護した数は2000匹を超える。</p> <p>2015年、那須代表の仲間とともに東京の譲渡会「ねござんまい」を開始。</p> <p>熱海市内にある猫カフェなどを備えた施設「テンプルキャット」でも里親のマッチングを行っている。これまでに1000匹以上を譲渡。</p> <p>熱海市および周辺地域において、放浪している元飼猫や野良猫の保護、飼い主の特定、一時的な預かりと飼育、TNR (Trap: 捕獲、Neuter: 避妊・去勢手術、Return: 元に戻す) による繁殖防止と殺処分減少のための活動を行っている。</p> <p>保護した猫の飼育場所として、3箇所シェルターを運営。うち1箇所は土石流発災後に支援者の協力により開設した。</p> <p>2020年度の収入は約1000万円で、内訳は6割が譲渡収入、3割が寄付金となっている。支出は約1000万円で、9割近くが医療費、エサ代、消耗品費、家賃で占められている。猫の平均飼育費は1匹あたり年間約2万円(2020年度実績)。ただし、この飼育費には人件費は含まれていない。</p> <p>熱海の土石流災害に伴う被災動物救済のための寄付金として、全国から約820万円が寄せられ、うち530万円はシェルター開設費や医療費などに活用された。残金は施設の維持管理費と医療費に充てられる予定。</p> <p>●くすのきの役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・猫の保護、飼育、譲渡活動、シェルター運営を実施する。 ・事業の進捗状況を記録し、ホームページやSNSで情報発信する。 ・広報を通して資金調達を図る。 ・活動資金を適切に管理し、有効活用する。 <p>●取り組むべき課題</p> <p>2021年7月3日に熱海市伊豆山地区で発生した大規模土石流災害を受けて、くすのきは民間災害時動物救済本部(CDCA)と連携し、同地区に取り残された動物のレス</p>

キューを開始。これまでに猫を中心に約 100 匹を保護した。

保護した猫の中には、被災者が飼っていた猫 2 匹と災害で亡くなった住民が飼っていた 4 匹が含まれている。100 匹のうち、人馴れ度合いから半数近くが元々飼い猫だった可能性がある。残りの半数は人に馴れておらず、地域猫の可能性が高いため、避妊・去勢後に元の場所に戻す予定である。

新たに保護した猫を飼育するための場所として、3 箇所目となるシェルターを開設した。

飼われていた保護猫は譲渡する必要があるものの、被災地の猫をレスキューし、シェルターを確保したり医療面でのケアをしたりする災害対応業務に追われて通常業務の譲渡活動ができない状況になっている。

東京で開催されている月 2 回の譲渡会に参加できないことで、譲渡による収入が途絶えている。同時に、保護した猫の飼育の長期化により、食料費や医療費が膨れ上がっている。このまま保護（入口）と譲渡（出口）のバランスが保てない状態が続くと、団体運営が厳しくなることが懸念されている。

さらに、新型コロナウイルス感染拡大による非常事態宣言発令を受け、テンプルキヤットは臨時休業を余儀なくされている。

くすのきでは、支出の大部分を猫の医療費、エサ代、消耗品費、家賃で占められていることから、代表含めスタッフ全員が無償で活動している。

団体の運営は、代表 1 人、コアスタッフ 3 人、ボランティア数人で担っており、各自が空いた時間を利用して活動している。猫への投薬などの医療面でのケア、取材対応、他団体との連携は那須代表が中心となって実施し、他のスタッフがそれらの活動をサポートしている。

ウェブサイトや SNS の更新、クラウドファンディングはボランティアが担当しているが、発信内容や発信頻度が限定的となっている。そのため、資金調達につながる効果的な情報発信を行うことが当面の課題として挙げられる。

● パートナー協働プログラム対象事業

コアスタッフの活動日数を増やすことで、災害対応業務と通常業務を両立できる運営体制を整える。

東京の譲渡会に毎回参加し、約 50 匹の保護猫の里親を見つける。また、オンライン譲渡会や東京と熱海以外で譲渡会を開催することで、里親探しを加速させる。

譲渡されるまでの間、猫が安心して暮らせる場所と健康的に過ごすためのフードを確保し、必要に応じて医療を提供する。

猫の飼育や譲渡会の様子、被災地の復旧・復興状況などの情報をホームページや SNS で定期的に発信することで、ファンドレイジングにつなげる。

● 期待される効果

- ・保護猫を飼育するための場所、食料、医療を提供することで、猫が健康的に過ごせる環境を整える。
- ・ペット連れ被災者の猫を預かることで、被災者の負担を軽減する。
- ・譲渡の機会を増やし、飼い主を失った猫の里親を見つけて、猫が第二の道を歩めるようにすることで、命の大切さや防災の啓発につなげる。
- ・オンラインや他地域での活動など既存の譲渡活動の幅を広げることで、譲渡収入を増やし、医療や飼育にかかる費用を削減する。
- ・猫や譲渡会の様子、被災地の現状についての情報を発信し、寄付金の獲得を促進する。

事業内容(事業種別 (コンポーネント) ごと)	裨益者 (誰が、何人)
保護猫の飼育と里親探し ・保護猫の飼育場所、食料、医療、消耗品の提供 ・テンプルキヤットでの里親探し、東京や他の地域での譲渡会参加、オンライン譲渡会の開催	ペット連れ被災者 1 人、保護猫約 50 匹、里親約 50 人、伊豆山の被災地の住民約 300 世帯

